

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370101661
法人名	医療法人 日隈会
事業所名	グループホーム 悠々居
訪問調査日	平成 21 年 3 月 30 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4370101661		
法人名	医療法人 日隈会		
事業所名	グループホーム 悠々居		
所在地	熊本市萩原町 9-45 (電話) 096-378-8818		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成21年3月30日	評価確定日	平成21年4月27日

【情報提供票より】(21年 3月 17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	14

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建て	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	36,000円	有りの場合 償却の有無	退去時に返金
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 食材料費に含む 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護1	6 名	要介護2	9 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	83.76 歳	最低	73 歳
		最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日隈病院 八王寺町クリニック 宮崎耳鼻咽喉科 浮池歯科医院 熊本市民病院 笹岡整形外科 国立熊本病院 さくら病院(歯科)
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体病院や介護施設等の機能が集中した中にあるホームは医療への安心感や職員の研修体制が構築し、多機能性を発揮している。今年度は新管理者のもと全職員で理念や介護方針を見なおし、地域密着型事業所として地域での暮らしの継続という視点を入れ、地域との関係強化を図っている。最高年齢100歳と高齢化が進んでいる中でも、座って出来る体操等機能低下防止に取組み、転倒防止に職員の観察力が活かされた居室環境作り等により安心した生活を支援し、個々の思いや言動を受容し、個別ケアを実践しており、職員の明るい寄り添いのケアが入居者の笑いのある日常となって表出されている。消防法の改正に即時対応しスプリンクラー・消火栓を整備し有事に備えている。公民館での認知症ケア勉強会に講師として参加し啓発に組まれており、今後も認知症ケアの拠点として大いに期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題を会議の中で話し合い改善できる項目からスタートし、理念と介護方針を見直し地域との関わり方を盛り込み、運営推進会議をグループホームと小規模多機能事業所・高齢者住宅を地域密着型として捉え、3事業所が一体となって2ヶ月毎に開催することに変更している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価の意義を明確に認識し、1年間の集大成として各ユニット事に自己評価に取組み、各セクションの責任者が最終的に話し合い纏め上げ、自己評価の課題項目に優先順位を付け目標を持って改善へ向け取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域密着型として、グループホーム・高齢者住宅・小規模多機能居宅型事業所の同法人が合同で開催することに変更した運営推進会議は2ヶ月毎に開催している。事業所の現状報告や意見交換が行われ、外部評価結果を報告している。地域包括センターからの参加はあるが、行政からの出席は無く、今後も継続して参加を促していく意向である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時の家族とのコミュニケーションや苦情や意見を出しやすいようにと裏の出入り口と2・3階の入口に意見箱を設置しているが苦情は出ていない。担当者会議の出席時には家族からの意見も出ており、全員で話し合いサービス向上に反映させ、グループホームの苦情担当者を明記し、外部の公的苦情申立場所も掲示している。家族会の立ち上げにご尽力いただきたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設時より地域の中での生活の拡充を図っており、老人会や地域行事へ参加し交流を図り、保育園との相互交流は常態化している。年末の餅つきには地域住民にチラシを配布し多くの参加があり、公民館活動の一環として認知症ケアでの勉強会に講師として参画している。地域への啓発が深まり、地域生活は充実しつつある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域での暮らしの継続を視点に全職員で今までの理念と介護方針を見直し、理念に“日々が安らかでその人らしく地域で暮らし続けられるよう努力します”等と変更し、介護方針にも地域の中での生活の拡充への取り組みを平易な言葉として見直している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で決めた新たな理念・介護方針はよく理解しているが、申送り時の唱和やユニット毎に掲示し意識付けや訪問者への啓発としている。管理者は事例を通して方向性を示したり職員とのコミュニケーションを図り、職員は名刺の裏にも記載しケアへの迷いが生じた時には理念や介護方針に立ちもどることにしている。理念に地域との関係性を謳い、地域生活の拡充に向け全職員が真摯に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設時より地域の中での生活の拡充を図っており、老人会や地域行事へ参加し交流を図り、保育園との相互交流は常態化している。年末の餅つきには地域住民にチラシを配布し多くの参加があり、公民館活動の一環として認知症ケアでの勉強会に講師として参画している。地域への啓発が深まり、地域生活は充実しつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を明確に認識し、1年間の集大成として各ユニット事に自己評価に取り組み、各セクションの責任者が最終的に話し合い纏め上げ、自己評価の課題項目に優先順位をつけ、目標を持って改善へ向け取組んでいる。前回の課題を会議の中で話し合い改善できる項目からスタートし、理念や介護方針に地域の中での関係を具体的に取り入れたり、運営推進会議を2ヶ月毎と定例化し地域との関係強化に努める等ホーム運営に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域密着型として、グループホーム・高齢者住宅・小規模多機能居宅型事業所の同法人が合同で開催することに変更した運営推進会議は2ヶ月毎に開催している。事業所の現状報告や意見交換が行われ、外部評価結果を報告している。地域包括センターからの参加はあるが、行政からの出席は無く、今後も継続して参加を促していく意向である。	○	運営推進会議を合同で行うことで、3事業所内の連携強化や地域の生活拡充につながっているが、運営推進会議というネーミングからか堅苦く意見が出にくい面もあり、今後楽しんでもらいながら意見等が出るよう工夫していく意向である。ネーミングを考えたり、行事等を探り入れる等工夫され、今後のホーム運営に活かしていただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会に参加や認知症サポーター研修等により質の向上を図り、毎月介護相談員の訪問があり、入居者の状況を共有している。生活保護受給者については行政担当者と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時に暮らしぶりや健康状態を説明し、心身の状態変化には随時電話連絡をおこなっている。不定期ではあるがホーム便りを作成し家族の安心へ繋げている。又、イベントへの参加時や半年毎の担当者会議参加時に詳細に説明している。職員体制は各ユニットに掲示し、異動は運営推進会議の中で紹介している。		
		○運営に関する家族等意見の反映			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	15	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の家族とのコミュニケーションや苦情や意見を出しやすいようにと裏の出入り口と2・3階の入口に意見箱を設置しているが苦情は出ていない。担当者会議の出席時には家族からの意見も出ており、全員で話し合いサービス向上に反映させ、グループホームの苦情担当者を明記し、外部の公的苦情申立場所も掲示している。	○	家族の訪問も多く、中には毎週入居者と一緒に外出される家族もおられる。イベントの案内もされており、この機会を家族同士の交流会とし、頻りに訪問される家族等が発起人となり家族会までつながるようご尽力いただきたい。また、意見箱の活用は無いようなので外部評価でのアンケートを活かしサービス向上を図っていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者・管理者は入居者が馴染みの職員によりケアの重要性を認識し出来る限りの異動は行わないことにしている。定年による退職等があり、明るい環境作りによりダメージを防ぐよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の院内研修として教育委員会が年間スケジュールを立てた集合教育の他、様々な委員会にホームの職員も参加したり、ホーム職員が介護担当として指導している。実践者研修等の外部研修に積極的に参加し、2ヶ月毎にホーム内の勉強会を開いている。個人評価表を基に意見交換を行い、職員個々のスキルアップに努める等、法人内外の研修体制が確立している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での意見交換や交流を図り、合同研修会には職員も参加している。他のグループホームとの相互交流など連携した取組みや同法人内の事業所での連携等により質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して入居していただくため家族と共に事前に訪問し一緒に過ごしてもらい、職員との信頼関係を築くよう配慮している。他の入居者とのコミュニケーションにも取組み、家族へも訪問をお願いする等協力を得ながら徐々に馴染めるよう支援しているが、開設時からの入居者が多く、入居者と職員との関係は構築し、穏やかにゆっくりとした生活となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中に自己重要感を高めるよう感謝や労うことで意欲を高めたり意識向上を図り、できることを中心に協力しながら和やかな生活を支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中、行動や表情等から個々のサインを察知し、申し送り時に情報交換やケア方針を話し合い、本人が満足して穏やかに生活されることを念頭に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居後2週間位の観察や本人を知る期間とし、本人・家族の意向を把握し、全員でのカンフェレンスにより介護計画を作成している。担当者会議には本人・家族・主治医・管理者・心理士・介護計画担当者・各ユニットの責任者やケア担当者が参加している。		
		○現状に即した介護計画の見直し			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	37	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは認定調査に合わせているが、毎月1回プランを評価し、状況によっては追記したり、入退院や心身状態の変化に応じ見直し、現状に即したプランを新たに作成している。また、ケアチェック表も半年毎に作成しなおし、半年毎の担当者会議に家族が参加している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別買物支援や老人会活動(個人での入会)への同行、美容院への付添い等柔軟に対応している。職員の健康管理や医療との連携により早期発見や体調異常に即時対応可能である。法人の持つ多機能性を多様に活用できる利点もあり、特に今年は骨折しても早期退院し、ホームでの生活リハにより独歩される等、主治医の指示のもと、職員の寄り添いのケアでホームでの生活を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症専門である母体病院で受診し主治医を決め、2週間に1回の診察となっている。他科受診は家族対応としているが家族の都合によっては職員が同行している。母体病院が隣接しており、理事長や主治医が訪問し状況把握に努め、医師連絡網や医師へ報告と指示受けフローチャートを作成し連携を図っている。歯科訪問や送迎可能な歯科等での支援等、本人・家族の安心感や納得できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療施設への転院となっており、今のところ終末期ケアに取り組んだケースは無い。重度化・高齢化が進んでおり、本人や家族・主治医と方向性を話し合い、今後に備える意向である。	○	入居者の年齢からも継続して家族と話しあい、今後に備えていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個々の性格を把握し、入居者に応じた呼称や言葉かけを行い、明るく対応してる。毎年接遇やプライバシーの集合研修により意識付けを行い、個々の状態や場所をわきまえることに心がけている。各階入り口に個人情報保護に関する方針と目的を掲示し、家族から個人情報の使用同意書を受入れ、職員にも入職時守秘義務の誓約書を受け入れている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応のタイムスケジュールはあるが、本人の意思を尊重し会話や状態を見極め、穏やかな生活を支援している。訪問当日も食材の買出し、食事時間に時間を要する入居者にはゆっくり見守る等入居者の意思を優先に支援していることが確認できた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しや調理の準備、後片付け等できることを一緒に行い、励ましや労いの言葉を掛け、充実感を満たすよう心がけている。管理栄養士の立てた献立を中心にホームで入居者の嗜好を聞きながらアレンジし調理している。その日のメニューをボードに記し、職員も同じ時間に同じものを食する事で入居者の体調や好みを確認しながらゆったりとした食事風景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日2名ずつ2時半からの入浴となっているが、希望があれば毎日の入浴も可能である。少ない人数に対応することでゆっくりとリラックスした入浴を楽しまれている。夏場や発汗状態によってシャワー浴で対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
		○役割、楽しみごと、気晴らしの支援			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ・モップかけ、料理の下準備やスーパーでの買い物など個々に応じた支援を行っている。母体施設の大型バスを借用してお花見や入居者の誕生日に実施する誕生会などの楽しみごとを支援している。行事やレクレーションの家族参加が少ない為、今後も多くの家族参加を得られるよう努力する意向である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に応じ隣接運動場への散歩やスーパーでの食材購入に出かけたり、夏場になると朝の涼しい時間帯に散歩等外出している。今後も個々の健康状態に配慮しながら無理のない外出支援を行う意向であるが、毎週家族が外出支援される等の協力もある。	○	高齢化が進み外出も難しい状態にある事が推察されるが、一人ひとりの希望を把握し出来る限りの外出支援や職員の手薄時間帯のボランティアの活用等検討いただきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な出入りや鍵をかけることの弊害は全職員認識しているが、玄関・各階入り口を入居者の不穏時や危険性がある場合は一時的に施錠をしている。居室はドアもついているが、エアコンへの対応、トイレは内側からの施錠による事例によりカーテンを使用している。離床時の対応手順マニュアルを作成し、入居者個々の状況や状態を把握し見守りや観察を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を行い、日常的には防災委員を決め、防火対象物点検表によりチェックを行い、各ユニットに非常持出袋を用意している。法人全体での訓練にも参加し、運営推進会議の中で、話し合いが持たれており、地域の消防団長との話し合いも計画されている。日常の火災予防の担当を決め自衛消防隊の編成もあり、消防法の改正に伴い、スプリンクラーと消火栓を早速に付けている。	○	地区の消防団長の話し合いも予定されており、災害対策強化とともに地域に訓練日の周知を図り、住民の安心感へとつなげていただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
		○栄養摂取や水分確保の支援			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定を野線化し、日々のチェックにより食事量を調整している。水分は自ら訴えられる事はなく、職員が毎食時やお茶の時間を決め、声かけしている。又、個々の嚥下状態等によりキザミ食等個別に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階には畳のコーナーを中心にソファを設置したり、各階毎に季節の花や掲示物により明るく楽しい空間作りに努めている。昔の遊び道具等懐かしさ等も入居者への安心感につなげ、歩行の妨げになる物を置かず入居者が安心して過ごせる環境を心がけ、常に入居者の状態変化にレイアウトを変更している。各階の入り口には職員の顔写真を掲示し、家族の安心・信頼につなげている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・タンスはホーム側が用意しているが、入居者の心身の状態変化に介護用ベットとの入れ替えや洋室に畳を入れ布団での生活へと変更している。家族に使い慣れたものの持込を依頼し、身体機能や安全面への配慮から家具の移動や環境整備を行なっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム悠々居(1F)
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市萩原町9-45
記入者名 (管理者)	梅田 裕子
記入日	平成 21年 3月 17日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(理念の変更)平成21年度 地域密着サービスを理念に掲げ、地域の方、有料ホーム、玄気苑合同の第一回餅つき大会、ひな祭り会等でイベントを開催、さらに回数を増やして行きたい。	○ 今後、地域の方が、何時でも立ち寄る事の出来るグループホームを目指して行きたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時、理念を唱和し理念の意識付けを行っている。室内3ヶ所に理念を掲示、又、職員の名札の裏にも記載し、常に理念に添ったケアの浸透を図っている。	○ 掲示だけでなく、本当に全職員が理解した上での理念の浸透に努めて行きたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居者、御家族、地域の方の目のつくところに理念を掲示し入居の際、運営推進連絡会議の際に説明を行っている。	○ 地域密着型を、御家族様、地域の方にも繰り返し説明し、理解を求めて行きたいと思います。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所の方達との挨拶は心がけて行うようにしています。最近随分とグループホームの存在が理解してもらえているようです。外観も季節に応じたものになっています。家庭的な環境づくりを心がけています。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や地域の行事等の参加は職員も同行し親交を深めている。三年前より近くの保育園より豆まき参加のご招待があり参加しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方との交流の祭や運営推進会議にて認知症や介護についての質問が必ずあります。その際には専門的な立場から説明や対応策を話したり、勉強会に出向いたりしている。	○	火災についての、相互の助け合いの理解や、必要性を話し合って行きたい。(3月26日運営推進会議で話し合いの予定)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価は、日頃の自分たちの行っているケアでいいのかの確認でもあり、外部の方から見て頂いての率直な意見は質の向上にかなり生かしています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、利用者の方や、地域の皆様に関する事は十分話し合っています。評価への取り組みも、御家族様にも話しすべての意見はサービスの向上に活かしています。	○	2ヶ月に1回の運営推進会議も軌道にのってきている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には参加して頂く様お願いし、市町村が行う研修には必ず参加し、情報を得、皆に伝達しています。	○	市の介護相談員を受け入れています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内での研修で専門の先生を招いて勉強会をしたり、院内、施設内の勉強会にも当、ソーシャルワーカーを活用して研修を行っています。	○	今後、研修の中にも盛り込んで行きたいと思います。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内や外部研修において虐待についての研修は多く有りますのでなるべく多数参加できるようにし、虐待は絶対禁止の姿勢で取り組んでいます。	○	言葉による暴力も含め、虐待については、絶対禁止と各フロアで話し合ったり研修したりしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の祭は契約書を重要事項説明書を読み上げ納得して契約を行って頂いております。又その祭に疑問点などをお尋ねし不安なく入居して頂くよう心がけております。一部はお渡ししています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の話を常に聞く様心がけ不具合は改善しています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面接時にご家族へ状況や状態を説明するようにしています。又急ぎの場合は連絡を入れることもあります。都合にて来られないご家族へも定期的にイベントの案内をし半年に一度は計画書の説明を致しますのでそのとき詳しく話すようにしています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当職員を明確にし何処でも対応するようにしています。意見箱の設置もありご利用していただけるよう説明しております。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、運営会議業務改善委員会があり各部署にて意見を多く持ち寄り良い方向に改善するよう院内全体で努めています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態に応じて職員の勤務は何処でも変更できます。又、緊急な場合でも連絡網を設けておりますので速やかに対応できるようしています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への配慮として出来る限り職員の異動が無いよう経営者、管理者が考えています。又仕方なく異動や退職にて施設を離れる場合でも残っている職員が対応し明るい環境づくりに努めるよう支援しています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内でも新人研修、助手研修その他研修が月に2～3回有り日々勉強しています。又、院外の研修も出来る限り沢山の職員が受講できるようしています。実務者研修にも積極的に出させてもらっています。グループホームのみの全員の研修も2ヶ月に1回実行しています。	○	4月より変化する介護保険の主旨に伴い、実地指導の研修を数多く実施して行きたいと思っています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	院内で別部署での同業者を招いた研修ではGHも参加しています。又、熊本市のGH連絡会議に参加して色々な意見を交換して交流を図っていると同時に施設の見学に訪れたり来られたりすることもあります。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各フロアで意見交換や話し合いの機会を設けストレスの原因を作らないようにしています。又、何時でも管理者に相談できるような環境でもあります。研修内容は必ず伝達しています。	○	管理者とスタッフのノート検討中です。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人評価を基にして本人、管理者及び経営者の意見交換を行い問題点の改善等に努めスキルアップを図っています。	○	個人の目標管理の導入の検討。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談や入居時、本人の生活暦、食味、嗜好調査などをし施設での生活環境をどの様に整えたら安心して生活が送れるかをスタッフ間で話し合います。又入居後慣れられるまでは声かけに気を配りコミュニケーションを図りながら本人が望んで事など引き出す努力をしている。	○	出来ればセンター方式の勉強会をして実施してみたいと思います。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談や入居時、ご家族の不安や心配などをお聞きし専門的立場にて説明や助言を行い安心されるよう支援しています。又、面会時や連絡を行った祭、施設での状況や状態を話すようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容を聞き万床にて入居が出来ない場合など院内施設の小規模多機能や支援センターの相談員に相談したい王に勤めています。現在、有料ホームも併設されて柔軟な対応が出来ている。	○	外来連携会議等で、各部所の連携を計って行きたいと思ひます。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は会話を心がけ明るい雰囲気や環境を提供し信頼関係を築く様支援します。他者と一緒に過ごす時も職員も介入しコミュニケーション作りも支援しています。慣れるまでご家族へ頻りに面接していただくよう協力をお願いしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や活動を励ましながら一緒に行くことで自己重要感を高めを例の言葉をいい労事で意欲の向上を図っています。又、入居者の方から優しい言葉を頂くことも多く過剰な介護をせず出来ないところを支援し助け合って生活を営んでいると思ひます。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の不安や心配事をお聞きし話しをすることで不安が軽減するよう支援しています。利用者の状態や状況などを説明し対応に困ることの無いよう支援しています。時折活動や推進会議に参加して頂き一緒にコミュニケーションを図っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には現状を説明し介護に戸惑いが無いよう支援しています。面会が少ないご家族への季節のセレモニーの連絡の祭は安心してくれるよう生活状況などを話すよう努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数年地元で生活を営まれた方は老人会の方が尋ねてこられたり老人会に入会し活動へも時折参加しているので徐々に他の入居者の方たちとも馴染みの関係が築けていると思ひます。	○	地域密着型に徐々に 取り組んで行きたいと思ひます。インフォーマルな支援を増やして行きたいと思ひます。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全員が参加できる活動を取り入れたり皆で会話をしたりと職員が介入し楽しい環境を作ることで孤立せずコミュニケーションが図れるよう努めています。入所者同士の対話にも適度に介入し、それぞれに支援をしていきたいと思ひます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同施設間で転院されても必要であれば関わっていきたいと思います。又、転院される時も何時でも相談や遊びに来てくださいと話しています。	○	転院後私達も入居者や御家族の状況等心配です。今後はお手紙や連絡を取り関係を断ち切らない関係作りを検討する必要があると思います。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や状態を通して本人の希望、意向を把握するよう努め、その後職員でミーティングを行い、どの様に対処を行うと本人が満足し穏やかに生活が送れるか何時も念頭に置いています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時すべて尋ね又、情報提供書を読み把握に努めています。直ぐに職員ミーティングを行い支援の方法を考えその事を共有しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	活動や家事を一緒に行いコミュニケーションを図りながら状態を観察し現状を把握する様努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を立案する際、職員全員でケアカンファレンスを行い生活環境、住環境支援の仕方等について徹底して話し合います。御家族へは面会時や連絡を入れる等しケアに対する意向を尋ねています。担当者会議を必ず開催しています。	○	御家族とスケジュールの調整を計りケアカンファレンスから参加して頂ける様にする。又、他の専門職の意見を聞き、より良いケアが行える様に努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態や状況が変化し異常があった場合は介護計画の見直しを御家族に話し新たに作成する様努めています。担当者会議を可能な限り開催し、現状に即したものを作成していく。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日報、ホーム日誌に記入し介護計画の作成に活かしています。又、職員は必ず目を通し情報は共有化できています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調に異常があった場合は昼夜問わず母体の医師や看護師に連絡をし早急に対処出来る連携体制です。介護保険や手続きに関しても他職に相談できる環境です。小規模多機能施設、認知症通所介護、有料ホーム等があり柔軟な支援が行えていると思います。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の中での資源の協力体制は十分とは言えない入居者の生活環境を整え安心して地域の中で生活を行える様支援する。	○	今後、運営推進会議やセレモニー等に他職の地域の方をお招きし馴染みの関係を築き良い環境作りに協力して頂ける様働きかける。又、ボランティアの支援も健闘していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	施設内に在宅支援センターが有り、常に情報交換を行っている。又、市のグループホーム協議会へ入会し定期的に話し合いや講習会があり参加しここでも色々な情報交換を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向は状態から言って理解するのは難しい。必要性の点では、家族歴や生活歴にて計り知ることが出来るので十分とは言えないが話し合っている。	○	現在、院内研修で権利擁護についての研修を数回行い今後重要な事だと理解をしています。今後は地域包括支援センターとより連携を計り長期的なケアマネジメントについて話し合っていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の他科受診は御家族にご協力を頂いていますが場合によっては職員が同行し受診を行っています。歯の治療は来居にて行って頂く等、本人や御家族が安心し納得がいく様出来る限り意向に添っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>入居者が高齢化し身体面も重度化が進んでいます。今後は御家族と時折面談を行って終末期をどのような方向で迎えたいか医師を交えて繰り返し話し合いを行っていく必要性が有ると思います。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>身体ケア面で施設で、不足なものを購入したり、不具合を把握し、入居者が暮らしやすい環境改善をしていく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方の性格を把握し状態や場所をわきまえた対応を心がけています。記録などに記入する際も個人情報に配慮し「他者」と記入しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の方のペースにあわせゆっくりと落ち着いた態度で理解しやすい言葉を選び返答を促す様支援を行っている。又、表情や声のトーンにも気をつけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方が話しかけてきたり状況や状態を見極め第一に入居者の方たちを優先し考え行動する様共有化しています。一人一人のペースを把握し本人の意見を尊重し穏やかに生活がおくれるよう支援を行っている。	○ 新人の職員に介護理念や方針を十分に理解をしケアを行っていく様教育に努めていく。認知症の対応の教育に努めています。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望があれば行きつけの美容院に行き希望の髪型にして頂いている。着るものは自分で着るものを選んで頂き毎朝整髪を行いお化粧を促す等女性としての気持ちを尊重する様努めています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の買い物、準備後片づけなど一緒に行い励ましや労いの言葉掛けを行い自己充実感を満たす様心がけています。食事の中で好みを把握し献立の中に入れる様努めています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居時嗜好調査を本人、御家族に行い調査票を活かして提供する様努め楽しくその人の、嗜好に配慮した生活が送れる様支援を行っています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時の声掛けと誘導解除を行い入居者の方の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を促しています。又、日中は布パンツに替え自力で排泄を行う行為を保てる様見守りや励ましにて意欲の向上を図っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、入浴曜日時間は決まっているが本人の希望があれば毎日入浴が出来る。又、一人の入浴でゆっくりとリラックスして入浴を楽しむことが出来る。排泄にて汚れた時なども季節や希望によっては入浴を行う事が多々有ります。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の方の状況や状態を観察し必要に応じて休息をとる様声掛けを行っている。日中に活動や家事、雑談をするなどし夜穏やかに入眠出来る様支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各個人の趣味出来ることを把握し協力して頂ける時は力を発揮して頂いている。季節に応じて行事や外出を施行し誕生月に誕生会を行い職員が楽しい雰囲気や明るい飾り付けを行い全員でカラオケや歌や踊りをしたりと楽しいセレモニーを提供しています。	○	行事やレクレーションには御家族へ連絡を入れ参加をお願いしますが、参加者が少ないのが現状です。入居者の方の日常生活を把握して頂く為と喜びや楽しみに協力して頂ける様参加を呼びかけていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭管理は難しくお金の価値の理解も乏しい(しまい込み、忘れてたりお金を持っていたことを忘れてたりされる又、他者にあげたりと危険な面があったため)	○	今後も、積極的に買い物にご一緒し、お金を持って頂く等の機会を増やして行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の人数に限られており季節に応じて運動場や近くへ連れて行くのは可能だが都外なると入居者の方の身体も重度化しており残った職員への負担も大きいのでご協力して頂ける御家族へはお願いしている。	○	少しずつですが、ボランティアを呼ぶ様にしていて、今後こういう機会を少しずつ増やして行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じて全体の職員が協力して外出したり地域のセレモニーに各階数名ずつ外出を行ったりはできるが個別や家族と共にその回だけの職員が抜けるのはNo61の理由も重なり難しい。	○	個別対応も是非行って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をかけたい」「手紙を出したい」等を希望される場合は何時でも対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族、知人、友人、馴染みの人達の訪問は何時でも歓迎しておりゆっくと対話していただけるよう入居者の方達の部屋にはソファを置いており、お茶、お茶菓子等を出す様になっています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	院内の研修や院外の研修には積極的に参加し身体拘束をしないケアの実践は職員全員の意識は徹底しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	カギをかけないケアを実践したいが入居者の方の状態によって危険性があると判断した場合はやむおえず時間を決め対応にてへ平穏を取り戻すまで施錠を行うことがあります。その事は御家族にも説明し了解を得ています。	○	職員の意識、ボランティアの協力等で、施錠を行わない様にして行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	朝夕の申し送りにて入居者の方の状況や状態を把握し見守りや観察を行っています。夜間は2時間毎巡視に廻り安全に生活が送れる様支援をしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居時に持ってこられ状態の変化にて危険と判断した時はまず本人と話して預かる様にしています。又、状態が戻り手元に戻すこともあります。その事は御家族へ説明を行い又、御家族へ預けることもあります。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	医療安全に関しての院内、院外の勉強への参加や医療安全委員会があり知識の向上には取り組んでいます。離居時の対応マニュアルや緊急連絡網が作ってあります。防災訓練は春と秋年2回行います。事故防止迅速な対応がとれるよう努めています。又個人日報には本人の顔写真を張っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応の訓練が勉強会の中に入っており全員が順番に参加しています。母体の医師に緊急時は連絡を入れ指示を仰ぎ迅速に対応出来ます。緊急対応マニュアル緊急連絡網を作成しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進委員会で相方が何の支援が必要かを話し合う機会を作りマニュアル等作成している段階です。	○	運営推進会議の中で災害対策、対応、協力体制を議題に取り入れ意見、提案を出して頂きマニュアル化していきたいと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の方の状態は常にスタッフ間で話し合い状態に応じた環境整備対応を行う等し安全に生活出来る様創意工夫を行っています。リスクについては、個々に御家族にお話しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常や入浴時にチェックし毎日定時にバイタルチェックを行い顔色動作の異常が無いかを観察し個人日報、ホーム日誌に記録し速やかに医師に報告し指示を仰ぎ対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報提供書が個人日報に綴じてあり何時でも確認出来る。服薬は職員が管理し自力で服用出来る方は手渡し服用後まで見守る。出来ない方は介助し錠剤を粉にして服用を行う事も有る。医師の指示通りに服薬を行いその後十分に観察を行っている。	○	リスク発生後、服薬時に顔写真を使用している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日課に体操を取り入れ出来る家事を手伝って頂き体を動かす様支援しています。食事に繊維物を多く取り入れ水分摂取に注意し自然排便が行える様努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きは声かけ、誘導、介助にて行っています。歯磨きが上手に行えているか磨き残しは無いか見守りチェックを行う。就寝時は入れ歯の洗浄を行い口内清掃、口臭予防を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者自身が食事の管理をする事は難しく体重が増加しない様職員側で食事量の調節を行っています。水分は自ら喉の渇きを訴える事がないのでお茶の時間を決め水分摂取を行う様に支援しています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母胎の感染対策委員会が月一回有り出席し各階の状況状態を報告勉強会でも感染については多く必ず参加し知識の向上に努めています。予防法についての指導書を掲示し感染マニュアルが有ります。感染が流行する以外でも日々殺菌、消毒を行い予防に努めています。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	一日の食材はその日に買い新鮮さを大事にしています。食中毒の予防は夜勤者が毎晩まな板、ふきん、湯飲み、ハブラシ、コップを次亜塩素酸と熱湯100℃以上で殺菌、消毒を行っています。食器類も食器乾燥機で長時間乾燥を行います。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表の門扉は何時も開放してあります。玄関周り、花壇は季節に応じて花を植えたり飾ったり明るく開放的な環境作りを心がけています。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下至る所に花や季節のタペストリーを飾りレクリエーションの写真を掲示したりと明るく楽しい空間作りを心がけています。又、昔の遊び道具を飾り懐かしさや安心感を与える工夫をしています。日常使う食器や道具も日頃家で使う物を使用し戸惑いが無い様配慮しています。窓にはすべてレースのカーテンが有り直射日光を避ける様気をつけています。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には数カ所ソファを置き自室にも各自ソファを置いてありますので利用者同士思い思い過ごせる様な工夫や支援を行っています。又、良く使用されています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時安心して生活が送れる様馴染みのある道具は持ってきて頂く様話しています。数が多い時や大きい物は部屋の広さも考えて怪我の危険性にもなりかねないのでお断りする事も有ります。出来る限り要望には添える様配慮しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日掃除時と一定時間に数分間窓を開け空気の入換えを行っています。温度の設定は26度に設定してあり気温に応じてこまめに調節し過ごしやすく生活が出来る様支援しています。	○	加湿器を各階設置した。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体の状態に応じて室内の家具を移動したり障害物を置かない様環境整備は良く行っています。又、室内廊下トイレ等至る所に手すりが設けてあり安全に移動が行える様にしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	戸惑われる場所には目印や矢印を掲示したり自室には表札や目印の花を飾ったりとスムーズに行動が出来る様工夫を行っています。 又、自室のダンスに衣類別に名前を貼る等し自力で衣類を選ぶ事が出来る様支援しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節に応じて花を植えているので花瓶に飾る花と一緒に摘み出たり要望が有る時は何時でも一緒に出て楽しむ様支援を行っています。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・介護施設(玄喜苑、認知症通所介護、有料ホーム)と併設施設があり合同で色々検討し実施できる。
- ・精神病院が併設しており日中、夜間と医師が在中していますので緊急時の対応が早い。
又、他の施設もあり色々な情報交換がおこなえる。
- ・院内の集合教育、感染対策、接遇研修に参加し介護力知識の向上に努めています。
又、委員会では医療安全委員会、業務改善委員会、運営委員会、外来委員会等に参加しさまざまな意見交換や情報収集等の交換に努めそれを職員に周知徹底する意味でサインをもらっています。
- ・介護理念・介護方針が名札の裏、室内数箇所に掲示してあり毎日申し送り時に述べ念頭においてケアを行い自立を目的とした介護支援を心がけています。
- ・明るく開放的な環境作りを心がけ家庭的な雰囲気作りを行い穏やかで安心して生活が送れるよう支援しています。
- ・公共の施設が充実しており地域との交流も行える。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム悠々居
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市萩原町9-45
記入者名 (管理者)	梅田 裕子
記入日	平成 21年 3月 17日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>(理念の変更)平成21年度 地域密着サービスを理念に掲げ、地域の方、有料ホーム、玄気苑合同の第一回餅つき大会、ひな祭り会等でイベントを開催、さらに回数を増やして行きたい。</p>	○	今後、地域の方が、何時でも立ち寄る事の出来るグループホームを目指して行きたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>申し送り時、理念を唱和し理念の意識付けを行っている。室内3ヶ所に理念を掲示、又、職員の名札の裏にも記載し、常に理念に添ったケアの浸透を図っている。</p>	○	掲示だけでなく、本当に全職員が理解した上での理念の浸透に努めて行きたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居者、御家族、地域の方の目のつくところに理念を掲示し入居の際、運営推進連絡会議の際に説明を行っている。</p>	○	地域密着型を、御家族様、地域の方にも繰り返し説明し、理解を求めて行きたいと思います。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ご近所の方達との挨拶は心がけて行うようにしています。最近随分とグループホームの存在が理解してもらえているようです。外観も季節に応じたものになっています。家庭的な環境づくりを心がけています。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>老人会や地域の行事等の参加は職員も同行し親交を深めている。三年前より近くの保育園より豆まき参加のご招待があり参加しています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方との交流の祭や運営推進会議にて認知症や介護についての質問が必ずあります。その際には専門的な立場から説明や対応策を話したり、勉強会に出向いたりしている。	○	火災についての、相互の助け合いの理解や、必要性を話し合っ行ってきたい。(3月26日運営推進会議で話し合いの予定)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価は、日頃の自分たちの行っているケアでいいのかの確認でもあり、外部の方から見て頂いての率直な意見は質の向上にかなり生かしています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、利用者の方や、地域の皆様に関する事は十分話し合っています。評価への取り組みも、御家族様にも話しすべての意見はサービスの向上に活かしています。	○	2ヶ月に1回の運営推進会議も軌道にのってきている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には参加して頂く様お願いし、市町村が行う研修には必ず参加し、情報を得、皆に伝達しています。	○	市の介護相談員を受け入れています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内での研修で専門の先生を招いて勉強会をしたり、院内、施設内の勉強会にも当、ソーシャルワーカーを活用して研修を行っています。	○	今後、研修の中にも盛り込んで行きたいと思います。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内や外部研修において虐待についての研修は多く有りますのでなるべく多数参加できるようにし、虐待は絶対禁止の姿勢で取り組んでいます。	○	言葉による暴力も含め、虐待については、絶対禁止と各フロアで話し合ったり研修したりしています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の祭は契約書を重要事項説明書を読み上げ納得して契約を行って頂いております。又その祭に疑問点などをお尋ねし不安なく入居して頂くよう心がけております。一部はお渡ししています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の話を常に聞く様心がけ不具合は改善しています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面接時にご家族へ状況や状態を説明するようにしています。又急ぎの場合は連絡を入れることもあります。都合にて来られないご家族へも定期的にイベントの案内をし半年に一度は計画書の説明を致しますのでそのとき詳しく話すようにしています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当職員を明確にし何処でも対応するようにしています。意見箱の設置もありご利用していただけるよう説明しております。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、運営会議業務改善委員会があり各部署にて意見を多く持ち寄り良い方向に改善するよう院内全体で努めています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態に応じて職員の勤務は何処でも変更できます。又、緊急な場合でも連絡網を設けておりますので速やかに対応できるようしています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への配慮として出来る限り職員の異動が無いよう経営者、管理者が考えています。又仕方なく異動や退職にて施設を離れる場合でも残っている職員が対応し明るい環境づくりに努めるよう支援しています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内でも新人研修、助手研修その他研修が月に2～3回有り日々勉強しています。又、院外の研修も出来る限り沢山の職員が受講できるようしています。実務者研修にも積極的に出させてもらっています。グループホームのみの全員の研修も2ヶ月に1回実行しています。	○	4月より変化する介護保険の主旨に伴い、実地指導の研修を数多く実施して行きたいと思っています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	院内で別部署での同業者を招いた研修ではGHも参加しています。又、熊本市のGH連絡会議に参加して色々な意見を交換して交流を図っていると同時に施設の見学に訪れたり来られたりすることもあります。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各フロアで意見交換や話し合いの機会を設けストレスの原因を作らないようにしています。又、何時でも管理者に相談できるような環境でもあります。研修内容は必ず伝達しています。	○	管理者とスタッフのノート検討中です。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人評価を基にして本人、管理者及び経営者の意見交換を行い問題点の改善等に努めスキルアップを図っています。	○	個人の目標管理の導入の検討。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談や入居時、本人の生活歴、食味、嗜好調査などをし施設での生活環境をどの様に整えたら安心して生活が送れるかをスタッフ間で話し合います。又入居後慣れられるまでは声かけに気を配りコミュニケーションを図りながら本人が望んで事など引き出す努力をしている。	○	出来ればセンター方式の勉強会をして実施してみたいと思います。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談や入居時、ご家族の不安や心配などをお聞きし専門的立場にて説明や助言を行い安心されるよう支援しています。又、面会時や連絡を行った祭、施設での状況や状態を話すようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容を聞き万床にて入居が出来ない場合など院内施設の小規模多機能や支援センターの相談員に相談したい王に勤めています。現在、有料ホームも併設されて柔軟な対応が出来る。	○	外来連携会議等で、各部所の連携を計って行きたいと思ひます。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は会話を心がけ明るい雰囲気や環境を提供し信頼関係を築く様支援します。他者と一緒に過ごす時も職員も介入しコミュニケーション作りも支援しています。慣れるまでご家族へ頻りに面接していただくよう協力をお願いしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や活動を励みながら一緒に行くことで自己重要感を高めを例の言葉をいい労事で意欲の向上を図っています。又、入居者の方から優しい言葉を頂くことも多く過剰な介護をせず出来ないところを支援し助け合って生活を営んでいると思ひます。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の不安や心配事をお聞きし話しをすることで不安が軽減するよう支援しています。利用者の状態や状況などを説明し対応に困ることの無いよう支援しています。時折活動や推進会議に参加して頂き一緒にコミュニケーションを図っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には現状を説明し介護に戸惑いが無いよう支援しています。面会が少ないご家族への季節のセレモニーの連絡の祭は安心してくれるよう生活状況などを話すよう努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数年地元で生活を営まれた方は老人会の方が尋ねてこられたり老人会に入会し活動へも時折参加しているので徐々に他の入居者の方たちとも馴染みの関係が築けていると思ひます。	○	地域密着型に徐々に 取り組んで行きたいと思ひます。インフォーマルな支援を増やして行きたいと思ひます。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全員が参加できる活動を取り入れたり皆で会話をしたりと職員が介入し楽しい環境を作ることで孤立せずコミュニケーションが図れるよう努めています。入所者同士の対話にも適度に介入し、それぞれに支援をしていきたいと思ひます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同施設間で転院されても必要であれば関わっていきたいと思います。又、転院される時も何時でも相談や遊びに来てくださいと話しています。	○	転院後私達も入居者や御家族の状況等心配です。今後はお手紙や連絡を取り関係を断ち切らない関係作りを検討する必要があると思います。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や状態を通して本人の希望、意向を把握するよう努め、その後職員でミーティングを行い、どの様に対処を行うと本人が満足し穏やかに生活が送れるか何時も念頭に置いています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時すべて尋ね又、情報提供書を読み把握に努めています。直ぐに職員ミーティングを行い支援の方法を考えその事を共有しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	活動や家事を一緒に行いコミュニケーションを図りながら状態を観察し現状を把握する様努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を立案する際、職員全員でケアカンファレンスを行い生活環境、住環境支援の仕方等について徹底して話し合います。御家族へは面会時や連絡を入れる等しケアに対する意向を尋ねています。担当者会議を必ず開催しています。	○	御家族とスケジュールの調整を計りケアカンファレンスから参加して頂ける様にする。又、他の専門職の意見を聞き、より良いケアが行える様に努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態や状況が変化し異常があった場合は介護計画の見直しを御家族に話し新たに作成する様努めています。担当者会議を可能な限り開催し、現状に即したものを作成していく。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日報、ホーム日誌に記入し介護計画の作成に活かしています。又、職員は必ず目を通し情報は共有化できています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調に異常があった場合は昼夜問わず母体の医師や看護師に連絡をし早急に対処出来る連携体制です。介護保険や手続きに関しても他職に相談できる環境です。小規模多機能施設、認知症通所介護、有料ホーム等があり柔軟な支援が行えていると思います。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の中での資源の協力体制は十分とは言えない入居者の生活環境を整え安心して地域の中で生活を行える様支援する。	○	今後、運営推進会議やセレモニー等に他職の地域の方をお招きし馴染みの関係を築き良い環境作りに協力して頂ける様働きかける。又、ボランティアの支援も健闘していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	施設内に在宅支援センターが有り、常に情報交換を行っている。又、市のグループホーム協議会へ入会し定期的に話し合いや講習会があり参加しここでも色々な情報交換を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向は状態から言って理解するのは難しい。必要性の点では、家族歴や生活歴にて計り知ることが出来るので十分とは言えないが話し合っている。	○	現在、院内研修で権利擁護についての研修を数回行い今後重要な事だと理解をしています。今後は地域包括支援センターとより連携を計り長期的なケアマネジメントについて話し合っていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の他科受診は御家族にご協力を頂いていますが場合によっては職員が同行し受診を行っています。歯の治療は来居にて行って頂く等、本人や御家族が安心し納得がいく様出来る限り意向に添っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	母体が認知症の専門医で2週間に一度診察を行っていますが、変化や異常があった場合、緊急に連絡を入れ対応の仕方を尋ねたり相談できたりと、その点では良い支援が行えてると思います。	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	ホーム内にも看護師がいて、隣接する母体にも相談できる看護師がいます。管理者も24時間コールとしています。	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	月に一度外来会議があり支援の方法等相談し安心して過ごすことが出来る様な体制です。又、何時でも迅速に対処できる連携が取れています。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	施設にて終末を迎えた事はありませんが経営者、医師、管理者の経営方針としてターミナルを取り入れる方向で進んでいます。それに応じて職員の確保、体制を徐々に整えています。	○ 入居者が高齢化し身体面も重度化が進んでいます。今後は御家族と時折面談を行って終末期をどのような方向で迎えたいか医師を交えて繰り返し話し合いを行っていく必要性が有ると思います。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	身体面の低下に伴い医師と相談し環境の整備を行うなどし自力で行う意欲が低下しない様に努めています。ただ、より良く暮らせる様支援するにはコスト面の問題もありチームで改善点の意見を出し合い提示していく様にする。	○ 身体ケア面で施設で、不足なものを購入したり、不具合を把握し、入居者が暮らしやすい環境改善をしていく。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	転居される際にはスタッフとミーティングを行い情報提供書を相手側にお渡ししています。身体、食事、排泄や病歴、生活歴、家族構成等対応に困られない様詳しく記入しています。又、何時でも連絡し尋ねて頂ける様こちら側も対処しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方の性格を把握し状態や場所をわきまえた対応を心がけています。記録などに記入する際も個人情報に配慮し「他者」と記入しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の方のペースにあわせゆっくりと落ち着いた態度で理解しやすい言葉を選び返答を促す様支援を行っている。又、表情や声のトーンにも気をつけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方が話しかけてきたり状況や状態を見極め第一に入居者の方たちを優先し考え行動する様共有化しています。一人一人のペースを把握し本人の意見を尊重し穏やかに生活がおくれるよう支援を行っている。	○ 新人の職員に介護理念や方針を十分に理解をしケアを行っていく様教育に努めていく。認知症の対応の教育に努めています。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望があれば行きつけの美容院に行き希望の髪型にして頂いている。着るものは自分で着るものを選んで頂き毎朝整髪を行いお化粧を促す等女性としての気持ちを尊重する様努めています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の買い物、準備後片づけなど一緒に行い励ましや労いの言葉掛けを行い自己充実感を満たす様心がけています。食事の中で好みを把握し献立の中に入れる様努めています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居時嗜好調査を本人、御家族に行い調査票を活かして提供する様努め楽しくその人の、嗜好に配慮した生活が送れる様支援を行っています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時の声掛けと誘導解除を行い入居者の方の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を促しています。又、日中は布パンツに替え自力で排泄を行う行為を保てる様見守りや励ましにて意欲の向上を図っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、入浴曜日時間は決まっているが本人の希望があれば毎日入浴が出来る。又、一人の入浴でゆっくりとリラックスして入浴を楽しむことが出来る。排泄にて汚れた時なども季節や希望によっては入浴を行う事が多々有ります。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の方の状況や状態を観察し必要に応じて休息をとる様声掛けを行っている。日中に活動や家事、雑談をするなどし夜穏やかに入眠出来る様支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各個人の趣味出来ることを把握し協力して頂ける時は力を発揮して頂いている。季節に応じて行事や外出を施行し誕生月に誕生会を行い職員が楽しい雰囲気や明るい飾り付けを行い全員でカラオケや歌や踊りをしたりと楽しいセレモニーを提供しています。	○	行事やレクレーションには御家族へ連絡を入れ参加をお願いしますが、参加者が少ないのが現状です。入居者の方の日常生活を把握して頂く為と喜びや楽しみに協力して頂ける様参加を呼びかけていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭管理は難しくお金の価値の理解も乏しい(しまい込み、忘れてたりお金を持っていたことを忘れてたりされる又、他者にあげたりと危険な面があったため)	○	今後も、積極的に買い物にご一緒し、お金を持って頂く等の機会を増やして行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の人数に限られており季節に応じて運動場や近くへ連れて行くのは可能だが都外なると入居者の方の身体も重度化しており残った職員への負担も大きいのでご協力して頂ける御家族へはお願いしている。	○	少しずつですが、ボランティアを呼ぶ様にしていて、今後こういう機会を少しずつ増やして行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じて全体の職員が協力して外出したり地域のセレモニーに各階数名ずつ外出を行ったりはできるが個別や家族と共にその回だけの職員が抜けるのはNo61の理由も重なり難しい。	○	個別対応も是非行って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をかけたい」「手紙を出したい」等を希望される場合は何時でも対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族、知人、友人、馴染みの人達の訪問は何時でも歓迎しておりゆっくと対話していただけるよう入居者の方達の部屋にはソファを置いており、お茶、お茶菓子等を出す様になっています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	院内の研修や院外の研修には積極的に参加し身体拘束をしないケアの実践は職員全員の意識は徹底しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	カギをかけないケアを実践したいが入居者の方の状態によって危険性があると判断した場合はやむおえず時間を決め対応にてへ平穏を取り戻すまで施錠を行うことがあります。その事は御家族にも説明し了解を得ています。	○	職員の意識、ボランティアの協力等で、施錠を行わない様にして行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	朝夕の申し送りにて入居者の方の状況や状態を把握し見守りや観察を行っています。夜間は2時間毎巡視に廻り安全に生活が送れる様支援をしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居時に持ってこられ状態の変化にて危険と判断した時はまず本人と話して預かる様にしています。又、状態が戻り手元に戻すこともあります。その事は御家族へ説明を行い又、御家族へ預けることもあります。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	医療安全に関しての院内、院外の勉強への参加や医療安全委員会があり知識の向上には取り組んでいます。離居時の対応マニュアルや緊急連絡網が作ってあります。防災訓練は春と秋年2回行います。事故防止迅速な対応がとれるよう努めています。又個人日報には本人の顔写真を張っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応の訓練が勉強会の中に入っており全員が順番に参加しています。母体の医師に緊急時は連絡を入れ指示を仰ぎ迅速に対応出来ます。緊急対応マニュアル緊急連絡網を作成しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進委員会で相方が何の支援が必要かを話し合う機会を作りマニュアル等作成している段階です。	○	運営推進会議の中で災害対策、対応、協力体制を議題に取り入れ意見、提案を出して頂きマニュアル化していきたいと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の方の状態は常にスタッフ間で話し合い状態に応じた環境整備対応を行う等し安全に生活出来る様創意工夫を行っています。リスクについては、個々に御家族にお話しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常や入浴時にチェックし毎日定時にバイタルチェックを行い顔色動作の異常が無いかを観察し個人日報、ホーム日誌に記録し速やかに医師に報告し指示を仰ぎ対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報提供書が個人日報に綴じてあり何時でも確認出来る。服薬は職員が管理し自力で服用出来る方は手渡し服用後まで見守る。出来ない方は介助し錠剤を粉にして服用を行う事も有る。医師の指示通りに服薬を行いその後十分に観察を行っている。	○	リスク発生後、服薬時に顔写真を使用している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日課に体操を取り入れ出来る家事を手伝って頂き体を動かす様支援しています。食事に繊維物を多く取り入れ水分摂取に注意し自然排便が行える様努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きは声かけ、誘導、介助にて行っています。歯磨きが上手に行えているか磨き残しは無いか見守りチェックを行う。就寝時は入れ歯の洗浄を行い口内清掃、口臭予防を行っている。口腔ケアを自力では上手く行えず歯石や磨き残しがあるため歯科医より歯間ブラシの指示があり解除にて行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時安心して生活が送れる様馴染みのある道具は持ってきて頂く様話しています。数が多い時や大きい物は部屋の広さも考えて怪我の危険性にもなりかねないのでお断りする事も有ります。出来る限り要望には添える様配慮しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日掃除時と一定時間に数分間窓を開け空気の入換えを行っています。温度の設定は26度に設定してあり気温に応じてこまめに調節し過ごしやすく生活が出来る様支援しています。	○	加湿器を各階設置した。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体の状態に応じて室内の家具を移動したり障害物を置かない様環境整備は良く行っています。又、室内廊下トイレ等至る所に手すりが設けてあり安全に移動が行える様にしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	戸惑われる場所には目印や矢印を掲示したり自室には表札や目印の花を飾ったりとスムーズに行動が出来る様工夫を行っています。 又、自室のダンスに衣類別に名前を貼る等し自力で衣類を選ぶ事が出来る様支援しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節に応じて花を植えているので花瓶に飾る花と一緒に摘み出たり要望が有る時は何時でも一緒に出て楽しむ様支援を行っています。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・介護施設(玄喜苑、認知症通所介護、有料ホーム)と併設施設があり合同で色々検討し実施できる。
- ・精神病院が併設しており日中、夜間と医師が在中していますので緊急時の対応が早い。
又、他の施設もあり色々な情報交換がおこなえる。
- ・院内の集合教育、感染対策、接遇研修に参加し介護力知識の向上に努めています。
又、委員会では医療安全委員会、業務改善委員会、運営委員会、外来委員会等に参加しさまざまな意見交換や情報収集等の交換に努めそれを職員に周知徹底する意味でサインをもらっています。
- ・介護理念・介護方針が名札の裏、室内数箇所に掲示してあり毎日申し送り時に述べ念頭においてケアを行い自立を目的とした介護支援を心がけています。
- ・明るく開放的な環境作りを心がけ家庭的な雰囲気作りを行い穏やかで安心して生活が送れるよう支援しています。
- ・公共の施設が充実しており地域との交流も行える。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム悠々居(3F)
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市萩原町9-45
記入者名 (管理者)	梅田 裕子
記入日	平成 21年 3月 17日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	今後、地域の方が、何時でも立ち寄る事の出来るグループホームを目指して行きたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	掲示だけでなく、本当に全職員が理解した上での理念の浸透に努めて行きたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地域密着型を、御家族様、地域の方にも繰り返し説明し、理解を求めて行きたいと思います。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方との交流の祭や運営推進会議にて認知症や介護についての質問が必ずあります。その際には専門的な立場から説明や対応策を話したり、勉強会に出向いたりしている。	○	火災についての、相互の助け合いの理解や、必要性を話し合っ行ってきたい。(3月26日運営推進会議で話し合いの予定)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価は、日頃の自分たちの行っているケアでいいのかの確認でもあり、外部の方から見て頂いての率直な意見は質の向上にかなり生かしています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、利用者の方や、地域の皆様に関する事は十分話し合っています。評価への取り組みも、御家族様にも話しすべての意見はサービスの向上に活かしています。	○	2ヶ月に1回の運営推進会議も軌道にのってきている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には参加して頂く様お願いし、市町村が行う研修には必ず参加し、情報を得、皆に伝達しています。	○	市の介護相談員を受け入れています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内での研修で専門の先生を招いて勉強会をしたり、院内、施設内の勉強会にも当、ソーシャルワーカーを活用して研修を行っています。	○	今後、研修の中にも盛り込んで行きたいと思います。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内や外部研修において虐待についての研修は多く有りますのでなるべく多数参加できるようにし、虐待は絶対禁止の姿勢で取り組んでいます。	○	言葉による暴力も含め、虐待については、絶対禁止と各フロアで話し合ったり研修したりしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の祭は契約書を重要事項説明書を読み上げ納得して契約を行って頂いております。又その祭に疑問点などをお尋ねし不安なく入居して頂くよう心がけております。一部はお渡ししています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の話を常に聞く様心がけ不具合は改善しています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面接時にご家族へ状況や状態を説明するようにしています。又急ぎの場合は連絡を入れることもあります。都合にて来られないご家族へも定期的にイベントの案内をし半年に一度は計画書の説明を致しますのでそのとき詳しく話すようにしています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当職員を明確にし何処でも対応するようにしています。意見箱の設置もありご利用していただけるよう説明しております。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、運営会議業務改善委員会があり各部署にて意見を多く持ち寄り良い方向に改善するよう院内全体で努めています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態に応じて職員の勤務は何処でも変更できます。又、緊急な場合でも連絡網を設けておりますので速やかに対応できるようしています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への配慮として出来る限り職員の異動が無いよう経営者、管理者が考えています。又仕方なく異動や退職にて施設を離れる場合でも残っている職員が対応し明るい環境づくりに努めるよう支援しています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内でも新人研修、助手研修その他研修が月に2～3回有り日々勉強しています。又、院外の研修も出来る限り沢山の職員が受講できるようしています。実務者研修にも積極的に出させてもらっています。グループホームのみの全員の研修も2ヶ月に1回実行しています。	○	4月より変化する介護保険の主旨に伴い、実地指導の研修を数多く実施して行きたいと思っています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	院内で別部署での同業者を招いた研修ではGHも参加しています。又、熊本市のGH連絡会議に参加して色々な意見を交換して交流を図っていると同時に施設の見学に訪れたり来られたりすることもあります。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各フロアで意見交換や話し合いの機会を設けストレスの原因を作らないようにしています。又、何時でも管理者に相談できるような環境でもあります。研修内容は必ず伝達しています。	○	管理者とスタッフのノート検討中です。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人評価を基にして本人、管理者及び経営者の意見交換を行い問題点の改善等に努めスキルアップを図っています。	○	個人の目標管理の導入の検討。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談や入居時、本人の生活歴、食味、嗜好調査などをし施設での生活環境をどの様に整えたら安心して生活が送れるかをスタッフ間で話し合います。又入居後慣れられるまでは声かけに気を配りコミュニケーションを図りながら本人が望んで事など引き出す努力をしている。	○	出来ればセンター方式の勉強会をして実施してみたいと思います。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談や入居時、ご家族の不安や心配などをお聞きし専門的立場にて説明や助言を行い安心されるよう支援しています。又、面会時や連絡を行った祭、施設での状況や状態を話すようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容を聞き万床にて入居が出来ない場合など院内施設の小規模多機能や支援センターの相談員に相談したい王に勤めています。現在、有料ホームも併設されて柔軟な対応が出来る。	○	外来連携会議等で、各部所の連携を計って行きたいと思ひます。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は会話を心がけ明るい雰囲気や環境を提供し信頼関係を築く様支援します。他者と一緒に過ごす時も職員も介入しコミュニケーション作りも支援しています。慣れるまでご家族へ頻りに面接していただくよう協力をお願いしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や活動を励ましながら一緒に行くことで自己重要感を高めを例の言葉をいい労事で意欲の向上を図っています。又、入居者の方から優しい言葉を頂くことも多く過剰な介護をせず出来ないところを支援し助け合って生活を営んでいると思ひます。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の不安や心配事をお聞きし話しをすることで不安が軽減するよう支援しています。利用者の状態や状況などを説明し対応に困ることの無いよう支援しています。時折活動や推進会議に参加して頂き一緒にコミュニケーションを図っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には現状を説明し介護に戸惑いが無いよう支援しています。面会が少ないご家族への季節のセレモニーの連絡の祭は安心してくれるよう生活状況などを話すよう努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数年地元で生活を営まれた方は老人会の方が尋ねてこられたり老人会に入会し活動へも時折参加しているので徐々に他の入居者の方たちとも馴染みの関係が築けていると思ひます。	○	地域密着型に徐々に 取り組んで行きたいと思ひます。インフォーマルな支援を増やして行きたいと思ひます。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全員が参加できる活動を取り入れたり皆で会話をしたりと職員が介入し楽しい環境を作ることで孤立せずコミュニケーションが図れるよう努めています。入所者同士の対話にも適度に介入し、それぞれに支援をしていきたいと思ひます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同施設間で転院されても必要であれば関わっていきたいと思います。又、転院される時も何時でも相談や遊びに来てくださいと話しています。	○	転院後私達も入居者や御家族の状況等心配です。今後はお手紙や連絡を取り関係を断ち切らない関係作りを検討する必要があると思います。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や状態を通して本人の希望、意向を把握するよう努め、その後職員でミーティングを行い、どの様に対処を行うと本人が満足し穏やかに生活が送れるか何時も念頭に置いています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時すべて尋ね又、情報提供書を読み把握に努めています。直ぐに職員ミーティングを行い支援の方法を考えその事を共有しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	活動や家事を一緒に行いコミュニケーションを図りながら状態を観察し現状を把握する様努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を立案する際、職員全員でケアカンファレンスを行い生活環境、住環境支援の仕方等について徹底して話し合います。御家族へは面会時や連絡を入れる等しケアに対する意向を尋ねています。担当者会議を必ず開催しています。	○	御家族とスケジュールの調整を計りケアカンファレンスから参加して頂ける様にする。又、他の専門職の意見を聞き、より良いケアが行える様に努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態や状況が変化し異常があった場合は介護計画の見直しを御家族に話し新たに作成する様努めています。担当者会議を可能な限り開催し、現状に即したものを作成していく。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日報、ホーム日誌に記入し介護計画の作成に活かしています。又、職員は必ず目を通し情報は共有化できています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調に異常があった場合は昼夜問わず母体の医師や看護師に連絡をし早急に対処出来る連携体制です。介護保険や手続きに関しても他職に相談できる環境です。小規模多機能施設、認知症通所介護、有料ホーム等があり柔軟な支援が行えていると思います。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の中での資源の協力体制は十分とは言えない入居者の生活環境を整え安心して地域の中で生活を行える様支援する。	○	今後、運営推進会議やセレモニー等に他職の地域の方をお招きし馴染みの関係を築き良い環境作りに協力して頂ける様働きかける。又、ボランティアの支援も健闘していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	施設内に在宅支援センターが有り、常に情報交換を行っている。又、市のグループホーム協議会へ入会し定期的に話し合いや講習会があり参加しここでも色々な情報交換を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向は状態から言って理解するのは難しい。必要性の点では、家族歴や生活歴にて計り知ることが出来るので十分とは言えないが話し合っている。	○	現在、院内研修で権利擁護についての研修を数回行い今後重要な事だと理解をしています。今後は地域包括支援センターとより連携を計り長期的なケアマネジメントについて話し合っていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の他科受診は御家族にご協力を頂いていますが場合によっては職員が同行し受診を行っています。歯の治療は来居にて行って頂く等、本人や御家族が安心し納得がいく様出来る限り意向に添っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	母体が認知症の専門医で2週間に一度診察を行っていますが、変化や異常があった場合、緊急に連絡を入れ対応の仕方を尋ねたり相談できたりと、その点では良い支援が行えてると思います。	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	ホーム内にも看護師がいて、隣接する母体にも相談できる看護師がいます。管理者も24時間コールとしています。	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	月に一度外来会議があり支援の方法等相談し安心して過ごすことが出来る様な体制です。又、何時でも迅速に対処できる連携が取れています。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	施設にて終末を迎えた事はありませんが経営者、医師、管理者の経営方針としてターミナルを取り入れる方向で進んでいます。それに応じて職員の確保、体制を徐々に整えています。	○ 入居者が高齢化し身体面も重度化が進んでいます。今後は御家族と時折面談を行って終末期をどのような方向で迎えたいか医師を交えて繰り返し話し合いを行っていく必要性が有ると思います。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	身体面の低下に伴い医師と相談し環境の整備を行うなどし自力で行う意欲が低下しない様に努めています。ただ、より良く暮らせる様支援するにはコスト面の問題もありチームで改善点の意見を出し合い提示していく様にする。	○ 身体ケア面で施設で、不足なものを購入したり、不具合を把握し、入居者が暮らしやすい環境改善をしていく。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	転居される際にはスタッフとミーティングを行い情報提供書を相手側にお渡ししています。身体、食事、排泄や病歴、生活歴、家族構成等対応に困られない様詳しく記入しています。又、何時でも連絡し尋ねて頂ける様こちら側も対処しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方の性格を把握し状態や場所をわきまえた対応を心がけています。記録などに記入する際も個人情報に配慮し「他者」と記入しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の方のペースにあわせゆっくりと落ち着いた態度で理解しやすい言葉を選び返答を促す様支援を行っている。又、表情や声のトーンにも気をつけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方が話しかけてきたり状況や状態を見極め第一に入居者の方たちを優先し考え行動する様共有化しています。一人一人のペースを把握し本人の意見を尊重し穏やかに生活がおくれるよう支援を行っている。	○ 新人の職員に介護理念や方針を十分に理解をしケアを行っていく様教育に努めていく。認知症の対応の教育に努めています。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望があれば行きつけの美容院に行き希望の髪型にして頂いている。着るものは自分で着るものを選んで頂き毎朝整髪を行いお化粧を促す等女性としての気持ちを尊重する様努めています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の買い物、準備後片づけなど一緒に行い励ましや労いの言葉掛けを行い自己充実感を満たす様心がけています。食事の中で好みを把握し献立の中に入れる様努めています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居時嗜好調査を本人、御家族に行い調査票を活かして提供する様努め楽しくその人の、嗜好に配慮した生活が送れる様支援を行っています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時の声掛けと誘導解除を行い入居者の方の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を促しています。又、日中は布パンツに替え自力で排泄を行う行為を保てる様見守りや励ましにて意欲の向上を図っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、入浴曜日時間は決まっているが本人の希望があれば毎日入浴が出来る。又、一人の入浴でゆっくりとリラックスして入浴を楽しむことが出来る。排泄にて汚れた時なども季節や希望によっては入浴を行う事が多々有ります。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の方の状況や状態を観察し必要に応じて休息をとる様声掛けを行っている。日中に活動や家事、雑談をするなどし夜穏やかに入眠出来る様支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各個人の趣味出来ることを把握し協力して頂ける時は力を発揮して頂いている。季節に応じて行事や外出を施行し誕生月に誕生会を行い職員が楽しい雰囲気や明るい飾り付けを行い全員でカラオケや歌や踊りをしたりと楽しいセレモニーを提供しています。	○	行事やレクレーションには御家族へ連絡を入れ参加をお願いしますが、参加者が少ないのが現状です。入居者の方の日常生活を把握して頂く為と喜びや楽しみに協力して頂ける様参加を呼びかけていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭管理は難しくお金の価値の理解も乏しい(しまい込み、忘れてたりお金を持っていたことを忘れてたりされる又、他者にあげたりと危険な面があったため)	○	今後も、積極的に買い物にご一緒し、お金を持って頂く等の機会を増やして行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の人数に限られており季節に応じて運動場や近くへ連れて行くのは可能だが都外なると入居者の方の身体も重度化しており残った職員への負担も大きいのでご協力して頂ける御家族へはお願いしている。	○	少しずつですが、ボランティアを呼ぶ様にしていて、今後こういう機会を少しずつ増やして行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じて全体の職員が協力して外出したり地域のセレモニーに各階数名ずつ外出を行ったりはできるが個別や家族と共にその回だけの職員が抜けるのはNo61の理由も重なり難しい。	○	個別対応も是非行って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をかけたい」「手紙を出したい」等を希望される場合は何時でも対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族、知人、友人、馴染みの人達の訪問は何時でも歓迎しておりゆっくと対話していただけるよう入居者の方達の部屋にはソファを置いており、お茶、お茶菓子等を出す様になっています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	院内の研修や院外の研修には積極的に参加し身体拘束をしないケアの実践は職員全員の意識は徹底しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	カギをかけないケアを実践したいが入居者の方の状態によって危険性があると判断した場合はやむおえず時間を決め対応にてへ平穏を取り戻すまで施錠を行うことがあります。その事は御家族にも説明し了解を得ています。	○	職員の意識、ボランティアの協力等で、施錠を行わない様にして行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	朝夕の申し送りにて入居者の方の状況や状態を把握し見守りや観察を行っています。夜間は2時間毎巡視に廻り安全に生活が送れる様支援をしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居時に持ってこられ状態の変化にて危険と判断した時はまず本人と話して預かる様にしています。又、状態が戻り手元に戻すこともあります。その事は御家族へ説明を行い又、御家族へ預けることもあります。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	医療安全に関しての院内、院外の勉強への参加や医療安全委員会があり知識の向上には取り組んでいます。離居時の対応マニュアルや緊急連絡網が作ってあります。防災訓練は春と秋年2回行います。事故防止迅速な対応がとれるよう努めています。又個人日報には本人の顔写真を張っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応の訓練が勉強会の中に入れており全員が順番に参加しています。母体の医師に緊急時は連絡を入れ指示を仰ぎ迅速に対応出来ます。緊急対応マニュアル緊急連絡網を作成しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進委員会で相方が何の支援が必要かを話し合う機会を作りマニュアル等作成している段階です。	○	運営推進会議の中で災害対策、対応、協力体制を議題に取り入れ意見、提案を出して頂きマニュアル化していきたいと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の方の状態は常にスタッフ間で話し合い状態に応じた環境整備対応を行う等し安全に生活出来る様創意工夫を行っています。リスクについては、個々に御家族にお話しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常や入浴時にチェックし毎日定時にバイタルチェックを行い顔色動作の異常が無いかを観察し個人日報、ホーム日誌に記録し速やかに医師に報告し指示を仰ぎ対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報提供書が個人日報に綴じてあり何時でも確認出来る。服薬は職員が管理し自力で服用出来る方は手渡し服用後まで見守る。出来ない方は介助し錠剤を粉にして服用を行う事も有る。医師の指示通りに服薬を行いその後十分に観察を行っている。	○	リスク発生後、服薬時に顔写真を使用している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日課に体操を取り入れ出来る家事を手伝って頂き体を動かす様支援しています。食事に繊維物を多く取り入れ水分摂取に注意し自然排便が行える様努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きは声かけ、誘導、介助にて行っています。歯磨きが上手に行えているか磨き残しは無いか見守りチェックを行う。就寝時は入れ歯の洗浄を行い口内清掃、口臭予防を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者自身が食事の管理をする事は難しく体重が増加しない様職員側で食事量の調節を行っています。水分は自ら喉の渇きを訴える事がないのでお茶の時間を決め水分摂取を行う様に支援しています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母胎の感染対策委員会が月一回有り出席し各階の状況状態を報告勉強会でも感染については多く必ず参加し知識の向上に努めています。予防法についての指導書を掲示し感染マニュアルが有ります。感染が流行する以外でも日々殺菌、消毒を行い予防に努めています。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	一日の食材はその日に買い新鮮さを大事にしています。食中毒の予防は夜勤者が毎晩まな板、ふきん、湯飲み、ハブラシ、コップを次亜塩素酸と熱湯100℃以上で殺菌、消毒を行っています。食器類も食器乾燥機で長時間乾燥を行います。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表の門扉は何時も開放してあります。玄関周り、花壇は季節に応じて花を植えたり飾ったり明るく開放的な環境作りを心がけています。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下至る所に花や季節のタペストリーを飾りレクリエーションの写真を掲示したりと明るく楽しい空間作りを心がけています。又、昔の遊び道具を飾り懐かしさや安心感を与える工夫をしています。日常使う食器や道具も日頃家で使う物を使用し戸惑いが無い様配慮しています。窓にはすべてレースのカーテンが有り直射日光を避ける様気をつけています。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には数カ所ソファを置き自室にも各自ソファを置いてありますので利用者同士思い思い過ごせる様な工夫や支援を行っています。又、良く使用されています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時安心して生活が送れる様馴染みのある道具は持ってきて頂く様話しています。数が多い時や大きい物は部屋の広さも考えて怪我の危険性にもなりかねないのでお断りする事も有ります。出来る限り要望には添える様配慮しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日掃除時と一定時間に数分間窓を開け空気の入換えを行っています。温度の設定は26度に設定してあり気温に応じてこまめに調節し過ごしやすく生活が出来る様支援しています。	○	加湿器を各階設置した。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体の状態に応じて室内の家具を移動したり障害物を置かない様環境整備は良く行っています。又、室内廊下トイレ等至る所に手すりが設けてあり安全に移動が行える様にしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	戸惑われる場所には目印や矢印を掲示したり自室には表札や目印の花を飾ったりとスムーズに行動が出来る様工夫を行っています。 又、自室のダンスに衣類別に名前を貼る等し自力で衣類を選ぶ事が出来る様支援しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節に応じて花を植えているので花瓶に飾る花と一緒に摘み出たり要望が有る時は何時でも一緒に出て楽しむ様支援を行っています。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・介護施設(玄喜苑、認知症通所介護、有料ホーム)と併設施設があり合同で色々検討し実施できる。
- ・精神病院が併設しており日中、夜間と医師が在中していますので緊急時の対応が早い。
- ・又、他の施設もあり色々な情報交換がおこなえる。
- ・院内の集合教育、感染対策、接遇研修に参加し介護力知識の向上に努めています。
- ・又、委員会では医療安全委員会、業務改善委員会、運営委員会、外来委員会等に参加しさまざまな意見交換や情報収集等の交換に努めそれを職員に周知徹底する意味でサインをもらっています。
- ・介護理念・介護方針が名札の裏、室内数箇所に掲示してあり毎日申し送り時に述べ念頭においてケアを行い自立を目的とした介護支援を心がけています。
- ・明るく開放的な環境作りを心がけ家庭的な雰囲気作りを行い穏やかで安心して生活が送れるよう支援しています。
- ・公共の施設が充実しており地域との交流も行える。